



# NEWSLETTER

日本水環境学会九州支部

発行：社団法人 日本水環境学会 九州支部

URL：http://www.jswe.or.jp/katu/shibu/kyushu/kyushukatu.html（水環境学会九州支部情報）

事務局；〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

福岡大学工学部社会デザイン工学科（担当：山崎）

TEL: 092(871)6631 内線 6462 FAX: 092(865)9460

E-mail: yama@fukuoka-u.ac.jp

水環境学会九州支部からの連絡をメールで  
希望される方は、上記メールアドレスまで御連絡下さい。

ニューズレター担当者連絡先；  
福岡県保健環境研究所（担当：熊谷）  
〒818-0135 福岡県太宰府市大字向佐野 39  
TEL: 092(921)9948 FAX: 092(928)1203

## 目 次

- 1 九州支部支部長就任にあたって  
熊本大学大学院自然科学研究科 古川 憲治
- 2 平成 18 年度水環境学会九州支部大会研究報告  
福岡大学工学部 渡辺 亮一  
佐賀大学低平地研究センター 山西 博幸  
福岡市保健環境研究所 水落 敏朗
- 3 平成 18 年度水環境学会九州支部大会総会報告  
宮崎大学工学部 鈴木 祥広
- 4 水環境若手研究・実務者育成基金による学術研究補助事業による助成報告  
九州産業大学工学部 加納 正道  
佐賀大学低平地研究センター 山西 博幸
- 5 シンポジウム開催案内  
平成 18 年度支部収支報告ならびに平成 18 年度支部収支（案）  
平成 19 年度水環境学会九州支部役員

### 1 九州支部支部長就任にあたって 熊本大学大学院自然科学研究科 古川憲治

このたび、加納先生の後任として日本水環境学会九州支部長を仰せつかりました。支部長就任にあたり一言ご挨拶させていただきます。日本水環境学会の支部の中でも、支部活動が活発な九

州支部の支部長ということで、私に務まるかどうか自信はございませんが、支部活動の経験豊かな山崎副支部長や幹事の皆様のご協力を得ながら、九州支部の活動を躍動させるべく全力を尽くしたいと考えていますのでよろしくお願ひ申し上げます。

特に今年度は、九州支部が日本水環境学会の

シンポジウムの開催地に立候補し、九州では2001年北九州市で開催されて以来2回目となります。シンポジウムは9月18、19日の2日間、熊本大学工学部2号館で開催されることになっています。現在、このシンポジウムを成功させるべく実行委員会を立ち上げて準備にあたっているところです。このシンポジウムの中で、「豊かな湧水の復活と保全」と題する本部企画の特別シンポジウムが開催されます。地下水の保全に先駆的に取り組んできた様々な熊本の活動を全国に向けて発信できるいい機会と考えています。湧水、地下水に興味ある会員の皆様には是非このシンポジウムにご参加頂ければ幸いです。また、九州支部の特別企画として、熊本学園大学の原田正純教授による、「水俣から学ぶ」と題する講演会を18日の17:00 - 18:00に開催します。水俣病が公式に確認されて50年が過ぎ、もう一度水俣病を見つめ直すいい機会になろうかと思えます。この講演会にも奮ってご参加頂ければと思っています。これに加えて、2つのポストツアー（水俣ツアー、熊本水めぐりツアー）も計画し、水環境問題の解決に先駆的な役割を担ってきた九州支部のポテンシャルをいささかでも全国からこのシンポジウムに参加される学会員の皆様に示すことができると考えています。このシンポジウムを、支部会員のご協力を得て是非成功裏に終わりたいと思っていますので、ご協力のほど宜しくお願いします。また、このシンポジウムの開催が、支部会員同士の交流の場となれば幸いです。

これとは別に九州支部では、シリーズ講演会、定例支部研究発表会、ニューズレターの発行等を支部の恒例行事としています。これらの活動も成果を挙げるべく、支部会員の皆様のご理解と、協力を得ながら、支部役員一同努力する所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 2 .平成 18 年度水環境学会九州支部大会 研究報告

日時：平成 19 年 3 月 9 日 13:00 ~ 16:40

場所：九州産業大学 8 号館 8209 教室

### セッション

（担当：福岡大学工学部・渡辺亮一）

このセッションでは、河川における水環境評価手法に関する研究発表、排水の高度処理に係る発表から水と歴史および文化に係る研究発表まで多岐に亘ったセッションとなった。このことは、九州支部における水環境への取り組みが非常に幅広い分野に亘っていることの表れであり、これから先の水環境研究への取り組みという側面から見ても非常に評価できる内容であった。今後、これらの研究成果が水環境の実務の現場で活かされて行くことを願っている。個々の発表から、1件目の発表では、九州北部における歴史文化と河川における構造物の歴史の変遷が述べられており、非常に興味深かった。2件目の発表では、都市河川における水環境の評価手法に関して検討されており、河川における効果的な水環境評価指標を構築していく基礎となる研究であった。3件目の発表では、生分解性プラスチックを用いた硝酸性窒素の除去技術に関して発表が行われ、これからの研究の方向性が示された。4件目の発表では、養豚場の排水処理に Anammox 処理を導入し場合の事例が示された。5件目の発表は、固定床担体を用いた水素発酵に関する研究であり、これからの代替エネルギーへの可能性を示す発表であった。6件目の発表では、水環境中における有機スズの挙動に関する研究であり、TBT 汚染の実態に関して非常に興味深い研究発表がなされた。

### セッション

（担当：佐賀大学低平地研究所・山西博幸）

本セッションでは6編の講演がなされた。6編中3編は「有明海」に関する研究、残り3編は「下廃水処理」に関する研究と「化学物質」の広域調査分析であった。以下、講演および質

疑の内容を総括する形でそれぞれについて簡単にとりまとめた。

大田らは有明海湾奥部に水理・水質モニタリング装置を設置し、特に夏場の水質変動特性について報告を行った。調査結果から小潮の深水域底層部で貧酸素水塊が断続的に観測された。また、貧酸素化をもたらす一因であろう底泥や再懸濁による酸素消費の影響について検討した。今後も長期的な調査の継続と有明海湾奥部での生態系を含めた俯瞰的評価への利用が期待される。

小野らは泥干潟における懸濁物質の輸送に関する数値計算を行った。これより、底泥の巻き上げに伴う懸濁物輸送特性や干潟の堆積傾向を示した。いずれも現地調査に基づくデータより算出されているものの、現場に即した計算条件等の設定に今後の課題が残される。

古賀らは有明海湾奥部に設置した 3 つの観測塔のデータから干潟上の水質の空間分布と懸濁物質の輸送特性について検討した。また、観測塔間での物質輸送量を計算し、干潟上への懸濁物の巻き上げ及び沈降フラックスを評価した。ただし、堆積厚換算に際しては、単純に含水比のみで評価することには問題も多いと言える。

西留らは排水処理の微生物固定化担体としてソフトロンキューブと呼ばれる材料を用い、中小規模処理場への導入の効果とその定量的評価について検討した。その結果、ソフトロンキューブの活性汚泥への添加量に応じて処理効率が変化し、かつ担体への活性汚泥付着量や馴養時間の短縮につながることを明らかにした。一方で、他の担体との比較検討は今後の課題として残る。

竹ノ内らは回転円板法による廃水処理の改善を含む同処理法の高機能化について検討を行った。特に、固液分離槽で排出される汚泥を第 2 固液分離槽に流入することによる処理効率と油分のバックキによる効果がポイントであった。ただし、いずれも除去メカニズムが明確にされておらず、実験データの蓄積とともにこれらの解明も急がれる。

門上らは、GC/MS データベースをもとに、

全国 11 河川で採水された試料に適用し、解析を行った。その結果、対象とした河川水の都市・生活系の汚染が全国的に見受けられることや農薬汚染が都市近郊でも見られることなどを明らかにした。また、従来法との定量値の比較検討も行われたが、検量線を必要としない本法でも十分に信頼できる測定値が得られることを確認している。今後、汎用性を高めたシステム化と精度の向上に期待するところである。

以上、6 件の講演はいずれも時宜に即した調査研究であったが、時間的制約のため十分な議論ができず残念であった。また、いくつかの講演で示された実験および調査結果は、その結論を導くには未だ十分なデータとは言えないものも見受けられ、今後の研究進捗に期待したい。

## セッション

(担当：福岡市保健環境研究所・水落敏郎)

セッション では、排水処理を中心に、数値解析、雨水利用など計 8 件の多岐にわたる発表がなされた。

「メッシュレス法による貯水池による貯水池水環境解析」では、貯水池の富栄養化や貧酸素化対策・予測評価法としてメッシュレス法解析を有限要素法と比較し、貯水池底面の境界条件と貯水池内の流れの解析法が提示された。

「小規模～大規模雨水利用システムの検討」では、都市内の雨水利用として福岡市内全域での屋根収集雨水利用システムについて検討し、メンテナンスの必要性の確認、大規模雨水利用システムの有効性の提案がなされた。

「イボニシに関する有機スズ化合物の影響」では、長崎県におけるイボニシのインボセックスの現況・経年変化等に関する調査結果が報告され、インボセックス出現率は、調査開始時に低率であった地点では減少傾向、高率な地点ではあまり変化していないこと等が示された。

「リン酸化ミカンジュースカスによる重金属の吸着」では、リン酸化ミカンジュースカスが各種の重金属との吸着特性について高い親和性を示し、特に Fe( )との親和性が非常に高いこと、pH の設定により In( )と Zn( )の選択分離が可能であること等が報告された。

「鉄担持イオン樹脂によるメッキ廃液からの次亜リン酸の分離」ではメッキ液廃棄量の削減等のため、簡便的な亜リン酸の分離法を検討し、pH 調整による亜リン酸と次亜リン酸の分離等を確認できた。

「柿によるクロム( )の回収と分離」では、柿の搾りカスを処理した吸着剤を用いてクロム( )と Fe、Zn 等の他の重金属との分離を試み、pH 2 以下での選択分離可能等が示唆された。

「市販農薬標準液のメーカー間相互比較」では、分析精度管理の一環として市販農薬混合標準液の相互比較がなされ、相当数の物質で有意差が認められたことが報告され、使用者及び製造販売者における対策方法が提示された。

「石炭利用において発生する排水の環境負荷」では、貯炭場排水による環境負荷の検討を模擬排水を用いて行い、急性毒性、変異原性ともに処理温度の上昇とともに増大すること等が報告された。



セッション風景 2007.3.9



### 3 .平成 18 年度水環境学会九州支部大会総会報告

宮崎大学工学部 鈴木 祥広

表記大会が平成 19 年 3 月 9 日に九州産業大学工学部を会場として開催され、支部役員会、総会ならびに研究発表会が行われた。

#### 【総会報告】

加納支部長から総会開会の挨拶があり、議長として門上希和夫氏が選出された。定足数が確認され、定数を満たしていることが総会を開催した。総会の議題は以下の通りであった。なお、平成 18 年度支部収支報告ならびに平成 19 年度支部収支(案)については、本ニューズレターに別途その報告が記載されている。

#### 1 ) 平成 18 年度支部活動報告

支部ニューズレター (No.15) 発行の報告  
学術活動支援

博多湾水質評価ワーキンググループ

代表の九州産業大学・加納教授(支部長)から本年度の活動状況について報告があり、来年度も継続して博多湾水質評価の活動を進めていくことが了承された。

低平地に関する国際シンポジウム

佐賀大学・山西助教授から当該シンポジウムの実施報告があり、学術活動支援が効果的に活用されたことを確認した。

シリーズ講習会

平成 18 年度に実施されたシリーズ講習会の実施内容と参加状況について福岡大学・山崎教授から説明があった。

#### 2 ) 平成 18 年度支部会計報告

平成 18 年度支部会計報告があり、承認された。

#### 3 ) 支部内規の一部改定について

団体会員については、例えば、代表者を正会員とみなす。

西田幹事長から団体会員の所属の方で正会員でない方の取り扱いについて、本支部会員になれるようにするための支部内規の一部改定（案）が提案された。その理由として、現在、団体会員の所属の方で正会員ではない方に役員をお願いしていること、その貢献度は非常に高いこと、日本水環境学会九州支部活性化のためにも活躍をお願いしたいとの説明があった。協議した結果、改定（案）が了承された。

#### 4) 平成 19 年度支部役員

支部長、支部役員および各種委員の 19 年度候補者（案）が役員会から提案され、承認された。なお、平成 19 年度の全役員名は本ニューズレターの別項に掲載されている。

#### 5) ノンポイント汚染研究会の開催について

佐賀大学・山本講師からノンポイント汚染研究会の開催とその趣旨説明があり、本支部の協力・支援をして欲しい旨の依頼があった。本支部で協力・支援する方向で進めていくことが了承された。

#### ・九州支部シリーズ講演会について

役員会事務局から支部主催のシリーズ講演会企画（案）の説明あった。

#### 6) 第 10 回水環境学会シンポジウム開催への対応・準備

平成 19 年度に熊本大学で開催される水環境学会シンポジウムについて、実行委員長・熊本大学古川教授から実施概要の説明と本支部会員の協力依頼があった。シンポジウムは重要な学会行事であり、本支部の協力体制を構築して準備を進めていくことが了承された。

#### 7) 平成 19 年度支部事業計画

本年度の事業として以下の項目について審議が行われた。

定例支部総会・研究発表会の開催（熊本，平成 20 年 1 月～3 月）

支部表彰の実施：本年度は推薦者がなかったため、次年度は積極的に賞表彰を推進する必要

があることが報告された。

#### 支部ニューズレターの発行

九州支部シリーズ講演会の開催：事務局の福岡大学・山崎教授から、「神々しさ」「美味しい水の飲める水環境とそのメカニズム」をキーワードとした現地学習会の企画が提案され、九州支部シリーズ講演会として実施することが了承された。

水環境若手研究・実務者育成基金による学術研究補助事業の実施

#### 8) 平成 19 年度支部予算（案）

平成 19 年度支部予算（案）の説明があり、承認された。

以上の議題について審議を行い、約 1 時間で総会はつつがなく終了した。



#### 4. 水環境若手研究・実務者育成基金による学術研究補助事業による助成報告

博多湾水環境評価ワーキンググループ活動と計画

九州産業大学工学部 加納 正道

日本水環境学会九州支部長を仰せつかるに当り、九州支部長の任期が小生より二年になることでもあって、「何かワーキンググループ活動等を出来ないか」と考えました。福岡市近隣在住の支部関係者とご相談の結果、標記の「博多湾水環境評価ワーキンググループ」が発足しまして、九州支部の研究補助を受け、二～三年間を活動期間と定め、活動を始めました。この活動に賛同を得、産官学より参加を頂きました方々は、下記のとおりです（順不同、敬称略）。

九州環境管理協会：松岡信明、内田唯史、西日本技術開発：井芹寧、新日本環境コンサルタント：真田和之、福岡県保健環境研究所：徳永隆司、熊谷博史、福岡市港湾局：富野正弘、光来真弓、坊茂憲、九州大学：島谷幸宏、福岡大学：山崎惟義、渡辺亮一、九州産業大学：内田泰三、加納正道

本ワーキンググループ会合では自由に各人が意見を述べているが、その内容を順不同で要約すれば以下のようなものである。

#### (1) 博多湾水環境評価の手法及びデータ

1.1 本ワーキンググループでしか行うことが出来ない手法の確立が望ましい。

1.2 その手法、テーマは10～20年後に初めて評価される性質のものであろう。

1.3 10～20年後の将来予測は難しいことが予想されるが、現在揃えることができるデータ及びアイデアを検討する。

1.4 過去を見ることの出来るシミュレーションも考えたい。

1.5 調査データは包括的なアイデアのもとに収集し、取り扱う必要がある。

1.6 県民、市民にアピールできる評価手法が望ましいので、伊勢湾などで実施された方法をヒヤリング、リサーチして参考にすることが有効であろう。

1.7 博多湾水環境評価する際に、植物の再生に関して、何が判っており、何が判っていないかを特定する必要がある。

1.8 博多湾水環境であれば、人工島建設及び下水の高度処理が水質、水流や底質に与える影響評価をシミュレートすることは有意義であろう。

1.9 社会学、歴史学、水産学など他分野の権威に入って貰えば面白い手法確立につながるであろう。

1.10 水環境の範囲は、水質や底質、生物、ランドスケープなど科学的なもの文化との結合を含むものと考えたい。

1.11 水質、水流、野鳥、漁獲量、災害発生頻度、溜池の分布、女性ホルモンの分布と循環などをマップ化して表示した総合的な評価手法を考えたい。

#### 3. 必要なデータの種類、項目及び収集先等

(1) 福岡市港湾局、国土交通省にまたがる有明海及び博多湾に関する生物量調査などの諸データは収集可能である。

(2) 福岡県水産試験場が実施している赤潮調査資料、水質項目、水産資源量など福岡市内外のデータを取り扱うことができる。

(3) 上記に関連して、福岡市港湾局富野氏により、博多湾に関する水質、物質収支、フレームや社会条件などについてプレゼンテーション頂く予定である。

#### 4. 研究活動期間および成果発表計画

本ワーキンググループの活動によって得られた研究成果は、一～二年度成果を水環境学会九州支部研究発表会、二～三年度成果を本部研究発表会および水環境関係の国際学会において発表する。また、活動終了時には報告書を作成したい。

また、本ワーキンググループ活動の一環として、博多湾再生市民フォーラムを平成18年12月26日に開催し、高校生から70歳以上の高齢者までの一般市民、漁業関係者、干潟を守る会等NPO関連の方々、九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所を含む多数の参加を得て、成功裏に終了した。これは、山崎惟義福岡大学教授を中心として、福岡市港湾局、九州環境管理協会、九州産業大学の有志が市民グループ等に働きかけて、開催にこぎ付けたものである。更に、平成19年6月には、福岡市港湾局のご協力のもとに、「博多湾クルーズと現地勉強会(仮称)」を計画中である。

この6月のイベント以降にも本ワーキンググループ活動は続けていく所存であり、会員諸氏の参加を歓迎いたしますので、参加ご希望の皆様は、下記連絡先へ、ご一報下さいますようお願い致します。

連絡先(加納): Tel(Fax) 092-673-5673,  
email: kanou@ip.kyusan-u.ac.jp



「低平地に関する国際シンポジウム ISLT2006」  
International Symposium on Lowland Technology 2006  
佐賀大学低平地研究センター・山西博幸

平成18年9月14日(木)～16日(土)の日程で上記国際会議が佐賀大学にて開催された。本会議開催に際し、水環境学会九州支部よ

り助成を受けた。以下、助成報告をとりまとめる。

国際低平地研究協会と佐賀大学低平地研究センターは、隔年に「低平地」に関する国際会議を開催している。本会議は、低平地環境のもとでの地盤環境学、水環境学および都市計画問題に関心を持つ、あるいはそれに従事する科学者、技術者、公共事業機関および計画家間の協力の促進、低平地技術に関する最新の研究成果と情報交換、低平地地域の将来的発展の探求、各専門分野での著名な研究・実務者による特別講演の実施を目的としている。

ISLT の冠を称しての開催は今回が5回目となり、すでに佐賀では3回開催し、第4回会議は海外のタイ・バンコクで開催した。毎回100～200名の参加を得ており、今回も15カ国132名の参加を得ることができた。会議には108編の論文投稿がなされ、18のセッションに分かれて口頭発表及びディスカッションがなされた。それぞれのセッションのトピックは、以下の通りであった。

(1) 軟弱地盤の特性、(2) 地盤改良およびジオシンセティックス、(3) 地盤沈下、(4) 低平地における地盤環境問題、(5) 軟弱沿岸地盤の特性、(6) 水資源と流域管理、(7) 汚水処理と水質浄化、(8) 河川、湖および沿岸域の水質汚濁、(9) 洪水抑制、(10) 地下水汚染と管理、(11) 沿岸および水辺の計画、(12) 都市開発のための環境アセスメント、(13) 環境のための都市デザイン・発展計画、(14) 都市環境の創造的再構成および保護、(15) 維持発展のための輸送計画

どのセッションも多くの参加者による討議が活発に行われ、世界各地域の低平地研究者間の交流も図られ、本会議が意図した目的は十分に果たしたと思われる。バンケットでは、今回より設けられた優秀講演者の発表及び表彰もなされた。最終日にはテクニカルツアーと

して有明海の現地見学会も実施され、有意義な3日間となったといえる。次回は2008年に韓国・釜山での開催が予定されている。



「低平地に関する国際シンポジウム2006」開会式



セッション 2006.9.15



集合写真 2006.9.16



## 5. シンポジウム開催案内

第10回日本水環境学会シンポジウムを下記の要領で開催いたします。各研究委員会主導のプログラムで実施されますが、公募を行う委員会では発表への参加が可能です。また、本部企画シンポジウムおよび本部と委員会との連携企画シンポジウム、九州支部企画特別講演など、多彩な企画を用意しています。非会員の方も参加できますので、大勢の方のご参加を期待しております。

### 1. 概要

期日 2007年9月18日(火)～19日(水)

場所 熊本大学工学部共同講義棟ほか

(〒860-8555 熊本県熊本市黒髪 2-39-1)

交通 熊本駅から 産交バス阿蘇・大津方面行き「熊本大学前」下車 市営バス第一環状線「子飼橋」下車徒歩10分

熊本市交通センターから 市営バス竜田口線、楠線「熊本大学前」下車 産交バス阿蘇・大津・武蔵ヶ丘方面行き「熊本大学前」下車

熊本空港から リムジンバスで熊本市交通センター

### 2. 内容

シンポジウム題目と主催研究委員会名は、下記の通りです。

18日(火) 午前(9:00～12:30)

- ・「健全な水環境の再生・創造」(本部・湿地と沿岸域研究委員会合同企画)(9:00～17:00)
- ・「バイオマスの中核とする水・物質循環適正化技術」(生物膜法研究委員会)
- ・「水環境評価とエコトキシコジェノミクス」(バイオアッセイによる安全評価研究委員会)

18日(火) 午後(13:30～17:00)

- ・「健全な水環境の再生・創造」(本部・湿地と沿岸域研究委員会合同企画)(9:00～17:00)
- ・「ノンポイント汚染のモデル解析(1)～到達点と新展開～」(ノンポイント汚染研究委員会)
- ・「国内外の様々な環境教育活動・環境保全活

動」(水環境教育研究委員会)

- ・「健全な水環境と水循環の創造のための膜技術の展開」(膜を利用した水処理技術研究委員会)

18日(火) 午後(17:00～18:00)

九州支部企画特別講演:「水保から学ぶ」熊本学園大学・原田正純教授

19日(水) 午前(9:00～12:30)

- ・「生き物から水環境保全を考える(Part )」(身近な生活環境研究委員会)
  - ・「紫外線水処理の現状と課題」(紫外線を利用した水処理技術研究委員会)
  - ・「豊かな湧水の復活と保全」(本部企画)
- 19日(水) 午後(13:30～17:00)
- ・「進化する窒素除去プロセス」(ポピュレーションダイナミクス研究委員会)
  - ・「流域水環境の課題とソリューション」(流域水環境ソリューション研究委員会)
  - ・「環境微量分析におけるMS分析技術の進化と課題」(MS技術研究委員会)

18日(火)18:30～20:00

懇親会 熊本大学 くすの木会館

### 3. 参加申し込み案内

会場準備の都合上、なるべく予約申し込みをしてください。すでに研究発表を申し込まれた方も、改めて参加申し込みが必要です。なお、学生会員とは、学会に本年度の学生会員として登録を済ませた方の意味です。

(1) シンポジウム参加費および懇親会参加費シンポジウム参加費

	予約申込み	当日申込み
本会会員	5,000円	6,000円
学生会員	3,000円	4,000円
非会員	8,000円	10,000円
学生非会員	4,000円	5,000円
懇親会費	3,000円	4,000円

(2) 予約申込み方法

下記要領により、郵送またはインターネットを利用して申し込み、期日までに参加費を振込んで下さい。

郵送の場合は、本号掲載の参加申込書(コピー可)に必要事項をご記入の上、下記宛てにお申し込み下さい。



〒135-0006 東京都江東区常盤 2-9-7

グリーンプラザ深川常盤 201 号

(社)日本水環境学会第 10 回シンポジウム係  
インターネットによる場合は、6 月 30 日(金)  
より下記ホームページから予約申し込みが可  
能です。

<http://www.jswe.or.jp/seminer/index.html>

### (3) 予約申し込み期限

郵送による申し込みの〆切りは、8月6日(月)  
(当日消印有効) インターネットの場合は、8  
月 13 日(月) 24:00 です。それ以降は当日申込扱  
いとなります。

### (4) 予約申し込み時の参加費振込

参加費を 8 月 17 日(金)までに指定口座に振  
り込んでください。振込人の名義は、申込書の  
振込人名義欄と同じにしてください。名義が異  
なりますと、お振込みが確認できません。ご入  
金を確認後、受付証 / 講演集引換券をお送りい  
たします。お振込期日(8/17)までにご入金が確  
認できない場合は、予約申し込みがキャンセルさ  
れますのでご注意ください。

振込先銀行：三菱東京 UFJ 銀行市ヶ谷支店 普通預金  
口座番号：4948527

名義：(社)日本水環境学会年会口

郵便振替：00180-5-564127

加入者名：(社)日本水環境学会

通信欄に、会員種別とシンポジウム参加費か  
懇親会参加費かなど、振込内容を必ず明記して  
ください。

### 4. ホテルと交通手段について

(1)宿泊施設の案内・斡旋等行ないませんので、  
各自で手配願います。

(2)会場には駐車スペースがございませんので、  
車での来場はご遠慮ください。

### 5. 連絡・問合せ先

(社)日本水環境学会第 10 回シンポジウム係  
東京都江東区常盤 2-9-7 グリーンプラザ 深川常盤 201 号

TEL 03-3632-5351

E-mail [nenkai@jswe.or.jp](mailto:nenkai@jswe.or.jp)

ホームページ <http://www.jswe.or.jp>

第 10 回水環境学会シンポジウム実行委員会

西田 渉

長崎県長崎市文教町 1-14

TEL 095-819-2624 FAX 095-819-2626

E-mail [nisida@civil.nagasaki-u.ac.jp](mailto:nisida@civil.nagasaki-u.ac.jp)

スケジュールについては、一部変更されること  
もありますので、最新情報を水環境学会のHPで  
随時ご確認ください。



### お知らせ

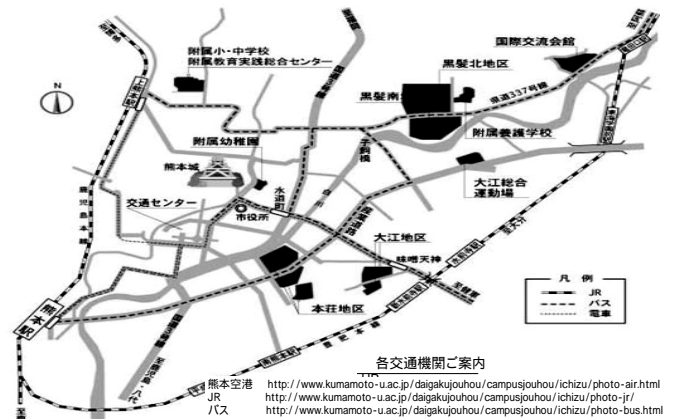
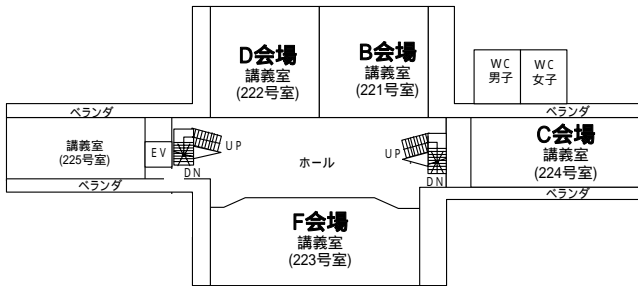
水環境学会九州支部からの連絡を  
メールで希望される方は、  
事務局：[yama@fukuoka-u.ac.jp](mailto:yama@fukuoka-u.ac.jp)  
まで御連絡下さい。

スケジュールについては、一部変更されることもありますので、最新情報を水環境学会のHPで随時ご確認ください。

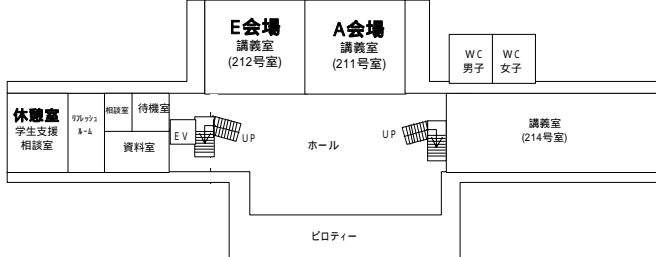
## 第10回日本水環境学会シンポジウム発表等の会場・日時・研究委員会名

		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	休憩所	
		211教室	221教室	224教室	222教室	212教室	223教室	学生支援室	
9月18日(火)	午前 9:00 ~ 12:30	本部・湿地と沿岸域研究委員会合同企画 「健全な水環境の再生・創造」	生物膜法 「バイオマスを中核とする水・物質循環適性化技術」	バイオアッセイによる安全評価 「水環境評価とエコトキシコジェノミクス」	嫌気性微生物処理 「嫌気性微生物活用の展開と研究動向」	ポスター発表 (本部・湿地と沿岸海域研究委員会合同企画)		休憩所	
	昼休み 12:30 ~ 13:30								
	午後 13:30 ~ 17:00	本部・湿地と沿岸域研究委員会合同企画 「健全な水環境の再生・創造」	ノンポイント汚染 「ノンポイント汚染のモデル解析(1)」	水環境教育 「国内外の様々な環境教育活動・環境保全活動」	膜を利用した水処理技術 「健全な水環境と水循環の創造のための膜技術の展開」				
	17:00 ~ 18:00		研究集会 (ノンポイント汚染)	研究集会 (水環境教育)					支部企画講演会 (原田先生)
	18:30 ~ 20:00	懇親会							
9月19日(水)	午前 9:00 ~ 12:30	身近な生活環境 「生き物から水環境保全を考える(Part 1)」	紫外線を利用した水処理技術 「紫外線水処理の現状と課題」	特別シンポジウム 実効委員会 「豊かな湧水の復活と保全」		ポスター発表 (MS技術)	ポスター発表 (ポピュレーションダイナミクス)	休憩所	
	昼休み 12:30 ~ 13:30	研究集会 (身近な生活環境)	研究集会 (紫外線を利用した水処理技術)						
	午後 13:30 ~ 17:00	ポピュレーションダイナミクス 「進化する窒素除去プロセス」	流域水環境ソリューション 「流域水環境の課題とソリューション」	MS技術 「環境微量分析におけるMS分析技術の進化と課題」					
	17:00 ~ 18:00								

工学部2号館 2階平面図



工学部2号館 1階平面図



収支計算書(九州支部)  
(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

収支報告は報告書をスキャナで取り込んだものを加工せずに貼り付けています。

(1) 収入の部

(単位: 円)

科目	平成18年度 予算額(a)	決算額(b)	差異(b-a)	備考
講演会参加費収入	1,210,000	728,000	-482,000	シリーズ講習会・支部総会
本部より活動費等収入	250,000	261,000	11,000	
利息収入	0	1,859	1,859	
当期収入合計(A)	1,460,000	990,859	-469,141	
前期繰越収支差額	3,984,929	3,984,929	0	
収入合計(B)	5,444,929	4,975,788	-469,141	

(2) 支出の部

科目	平成18年度 予算額(a)	決算額(b)	差異(b-a)	備考
支部総会開催経費	600,000	71,309	-528,691	
シリーズ講習会開催経費	1,160,000	678,343	-481,657	
研究会等補助金	2,000,000	150,000	-1,850,000	講演会・研究発表等補助
会議費	200,000	13,878	-186,122	役員会等
交通費	500,000	44,160	-455,840	幹事会等
通信運搬費	300,000	41,350	-258,650	ニューズレター等
消耗品費	50,000	2,513	-47,487	
印刷製本費	200,000	81,060	-118,940	支部研究発表会要旨集
振込手数料	20,000	2,730	-17,270	
雑費	50,000	420	-49,580	残高証明書
予備費	364,929	0	-364,929	
当期支出合計(C)	5,444,929	1,085,763	-4,359,166	
当期収支差額(A)-(C)	-3,984,929	-94,904	3,667,214	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	3,890,025		

繰越金	明細	金額
定期預金		0
普通預金		3,884,017
郵便貯金		0
現金		6,008
繰越金合計		3,890,025

収支関係書類を監査した結果、いずれも適正に処理されておりましたので報告します。

監事 内海英雄 

監事 山崎惟義 

平成19年度支部収支(案)

(1) 収入の部

科目	金額(円)	備考
講演会参加費収入	1,250,000	シリーズ講習会・支部総会
本部より活動費収入	250,000	
当期収入合計	1,500,000	
前期繰越金	3,890,025	
収入合計	5,390,025	

(2) 支出の部

科目	金額(円)	備考
支部総会開催経費	600,000	
シリーズ講習会開催経費	1,250,000	
研究会等補助金	2,000,000	講演会・研究発表等補助
会議費	200,000	役員会等
交通費	500,000	幹事会等
通信運搬費	300,000	ニューズレター等
消耗品費	50,000	
印刷製本費	200,000	支部研究発表会要旨集
振込手数料	20,000	
雑費	50,000	
予備費	220,025	
当期支出合計	5,390,025	

平成19年度 日本水環境学会九州支部 支部役員

役 職	氏 名	所 属	職 名
支部長	古川 憲治	熊本大学大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻	教授
副支部長	山崎惟義	福岡大学工学部	教授
評議員	岩本 浩	環境テクノス 株式会社	環境総合部長
	小野原裕子	鹿児島県環境保健センター	水質部長
	門上希和夫	北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科	教授
	金子 好雄	九州東海大学工学部	准教授
	加納 正道	九州産業大学工学研究科	工学研究科長
	川越 保徳	熊本大学大学院自然科学研究科	准教授
	熊谷 博史	福岡県保健環境研究所	研究員
	古賀 実	熊本県立大学環境共生学部	教授
	鈴木 祥広	宮崎大学工学部	准教授
	高梨 啓和	鹿児島大学工学部	准教授
	徳永 隆司	福岡県保健環境研究所	環境科学部長
	西田 涉	長崎大学工学部	准教授
	原口 公子	北九州市環境科学研究所	主幹
	粉 康則	株式会社 九州テクノリサーチ	取締役
	槇田 裕之	九州大学大学院医学研究院	准教授
	松井 清明	九州松下電器 水・環境研究所	主任技師
	松岡 信明	財団法人 九州環境管理協会	事業本部長
松永 雄二	株式会社 新日本環境コンサルタント	代表取締役	
宮城 俊彦	沖縄県衛生環境研究所	環境科学班班長	
三輪 成	株式会社 新日化環境エンジニアリング	分析部長	
吉津 憲	日本ミクニヤ 株式会社	九州事務所長	
渡辺 亮一	福岡大学工学部	講師	
監事	内海 英雄	九州大学大学院薬学研究院	教授
	山西 博幸	佐賀大学低平地研究センター	准教授
幹事	高見 徹	大分工業高等専門学校都市システム工学科	准教授
	水落 敏朗	福岡市保健環境研究所	主任研究員
顧問	北森 成治	財団法人 九州環境管理協会	参与
	藤崎 一裕	九州工業大学工学部	名誉教授
	市川 新		